

高齢化で自動車保険が高くなる！？

ファイナンシャル・プランナー 加藤梨里

早いもので今年も残すところ1カ月、そろそろ年末年始の予定を立てる時期になりました。中にはレジャーや帰省のため車で遠出する方もいらっしゃるかもしれませんが。そんなドライバーの方にとって気になるニュースが先月報じられました。大手損害保険会社が来年から60歳以上のシニアドライバーの保険料率を引き上げる予定だということです。損保ジャパンは来年4月、東京海上日動火災保険は7月の補償開始分から引き上げるといわれています。これをきっかけに、シニアドライバーの保険料引き上げが損保業界全体に広がる可能性もあります。

シニアドライバーの保険料引き上げのしくみ

損保各社がシニアドライバーの保険料値上げを検討している背景には、昨年7月に損害保険料率算出機構が「参考純率」を引き上げたことがあります。同機構は、事故の発生データを統計学的に分析し、契約者が支払う保険料と事故に遭った人が受取る保険金のバランスが取れる水準を算出しています。これを「参考純率」とよび、民間の損害保険会社が自社の自動車保険料を設定する参考値として用いています。

参考純率は、自動車の用途・車種、型式別料率クラス、新車・新車以外、保険金額等、年齢、等級、運転者限定の7項目について定められます。昨年の改定では、このうち「年齢」について、以前よりも年齢の階級が細かく区分されました。この結果、60歳以上のドライバーの参考純率が大幅にアップしました。

従来の参考純率では、契約者の年齢区分は3段階で、30歳以上は同じ料率でした。これが改定により、契約者の年齢区分が2つに統合され、新たに「記名被保険者」による年齢区分が設けられました。「記名被保険者」とは契約対象の車を主に使用する人のことです。記名被保険者区分は30歳以上10歳刻みで細分化されます。

参考純率はあくまでも目安ですので、民間の保険会社が参考純率をそのまま自動車保険料率とするわけではありません。しかし、これまでは一般的に35歳以上を一定料率としていた大手損保の保険料のしくみが、今後大きく変わるの間違いないでしょう。

〔旧〕

〔新〕

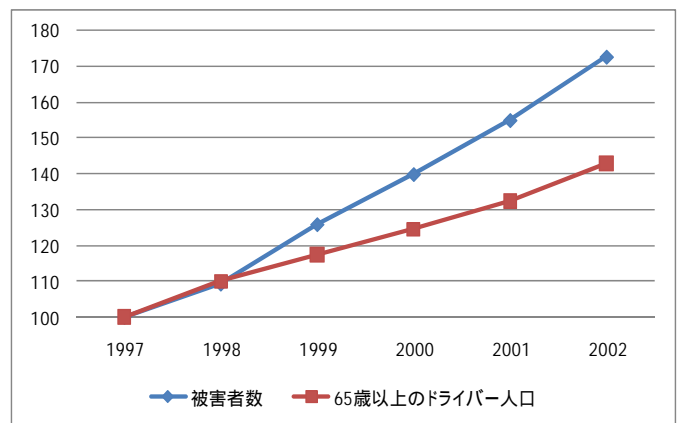
年齢を問わない区分	全年齢補償	年齢を問わない区分	全年齢補償	
区分1	21歳以上補償	区分1	21歳以上補償	
区分2	26歳以上補償	区分2	26歳以上補償	
				30歳未満
				30歳以上40歳未満
				40歳以上50歳未満
				50歳以上60歳未満
60歳以上70歳未満				
70歳以上				
区分3	30歳以上補償	区分3	30歳以上補償	

平均年齢

図1. 参考純率のしくみ (出典：損害保険料率算出機構より。筆者改編)

なぜシニアだけが値上げ対象に？

このようにシニアドライバーの保険料が引き上げられることになったのは、近年、シニアドライバーによる車のアクシデントが増加しているためです。シニアドライバーの人口は高齢化とともに増加しており、1997年から2002年の5年間で約1.4倍増加しました。また、自動車事故による被害者数はそれを上回る1.73倍増加し、



コラムの無断転写・転載などを禁じます。-

2022年には7倍以上（97年比）にもなると推計されています（図2参照）。

図2．シニアドライバーの人口推移と人身事故被害者数の推移（出典：自動車保険データに見るシニアドライバー事故の現状と予測,日本損害保険協会 2002より筆者作成）

一方で、事故リスクが高いといわれてきた若年層の車離れが進んでいるため、保険全体でのシニアドライバーのインパクトが一層大きくなっているのです。

シニアドライバーの事故はなぜ起こる？

シニアドライバーの事故は、主に一時停止や安全確認の遅れによって起こるといわれています。これらの遅れは、加齢によって眼球運動能力や動体視力が低下し、若い時に比べて認知や反応時間が遅くなるために起こります。

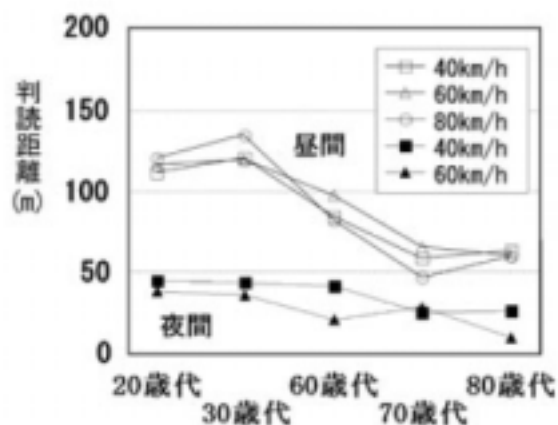


図3は、案内標識を読み取ってからその指示に従うまでの走行距離を測った実験結果です。これをみると、60歳代以上では昼間でも案内標識を判読してから操作をするまでに時間がかかることがわかります。

このような身体能力の低下は、個人差はあるものの加齢とともに誰にでも起こるものです。保険料が上がっても「いつまでもカーライフを楽しみたい」という方や、車が欠かせない環境にお住まいの方は、加齢による身体特性の変化を理解して、安全運転を心掛けたいものですね。

図3．年齢群別の案内標識の判読距離（出典：高齢ドライバーの特性と高齢者講習,予防時報 230,2007）

車をやめて節約するのもあり？

ドライバーの方にとって、自動車保険の値上げは歓迎できないことですが、セカンドライフの過ごし方を改めて考えるきっかけになるかもしれません。例えば、値上げをきっかけに車のない生活に切り替えることを検討しても良いかもしれません。

自動車の維持費は、平均的な自家用車で年間60~70万円といわれています。このうち自動車保険は約15万円ほどですが、これからの高齢化社会を考えると、保険料の負担は将来ますます重くなっていくと考えられます。60歳時点の平均余命は男性22.87年、女性28.46年です（出典：平成21年簡易生命表,厚生労働省）。車にかかるコストを抑えれば、20年以上にわたる長いセカンドライフを豊かに暮らすための原資に回すこともできるでしょう。

また、車に乗る代わりに歩く機会を増やせば、筋力アップによって介護状態になるリスクを抑えることも期待できます。さらに運動量を増やせば、心疾患にかかるリスクも低くなるといわれています。車にかかるコストに加えて、介護や病気による医療費も抑えることができれば、より充実したセカンドライフを過ごせるかもしれません。

高齢化とともにセカンドライフに必要なお金が膨らんでいる現在、自動車保険の値上げをきっかけに、自分らしいセカンドライフのあり方や資金のプランを考えられれば良いですね。

本コラムに掲載されている情報の正確性については万全を期しておりますが、サイト内情報を利用した結果に対しての責任は負いかねますのでご了承ください。

コラムの無断転写・転載などを禁じます。 -

Copyright © 2010 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.